資料１

2024年10月２日（水）
九経連理事・審議員合同会議

九州をもっと元気に！

～九経連ならではの「役割・強み」を活かした取組～

一般社団法人
九州経済連合会
Kyushu Economic Federation

１．九経連ならではの「役割」と「強み」

２．第2期中期事業計画　（2024～2026）
　　～ 地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦

３．九経連2024年度具体的な取組
　　～ ビジネスチャンス創出（共創のハブ機能）

九州地域戦略会議

設 立： 2003年10月28日

目 的： 「九州はひとつ」の理念のもと、
九州独自の発展戦略の研究や九州創生アクションプランなどの
具体的プロジェクトの推進に、官民協働で取り組む。
プロジェクト関係者間の協議や、年１回の夏季セミナーでの議論・交流などを踏まえ、年2回（春・秋）の定例会議では、時々のテーマについて議論し、所要の取組について意思決定する。

共同議長	九州地方知事会　会長　河野　俊嗣（宮崎県知事）
共同議長	九州経済連合会　会長　倉富　純男（西日本鉄道会長）
監　　事	鹿児島県知事　塩田　康一
監　　事	九州経済連合会　副会長　柴戸　隆成（福岡銀行 会長）
委　　員	【行　政】 九州地方知事会会員各県知事 【経済界】 九州経済連合会会長等 九州商工会議所連合会会長等 九州経済同友会代表委員 九州経営者協会会長
共同事務局	九州地方知事会･九州経済連合会



2024年6月3日　第45回九州地域戦略会議
各県知事と経済界委員

第45回九州地域戦略会議のトピックス

九州MaaSサービスイン
報道発表





新生シリコンアイランド九州
グランドデザイン　決議





九経連ならではの「役割」

①九州の課題を解決して
　　九州を元気にすること

②課題解決を通して
　　会員企業のビジネスチャンスを創出すること

舞台を整える

九経連ならではの「強み」

【強み①】
九州地方知事会や国等とのコネクションがある

民間だけでは解決できない案や官民連携した方が
望ましい案件に行政を巻き込み、協力を取り付ける
ことができる。
海外の経済団体・企業とのアライアンスも可能。



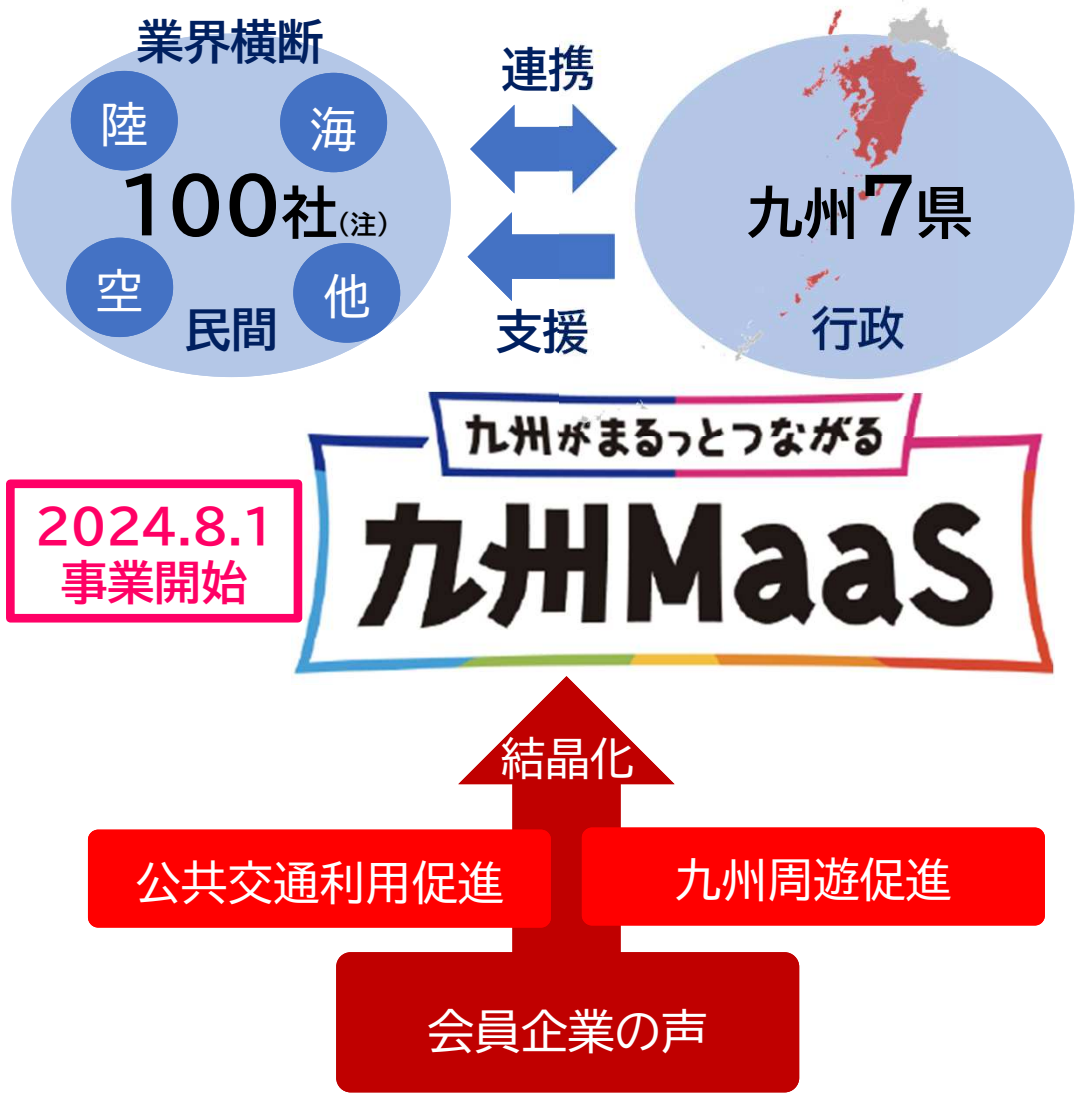
公明党と九経連との意見交換会
（2024年8月、熊本）

【強み②】
業界横断の多様な会員企業の知見やリソースを結集できる

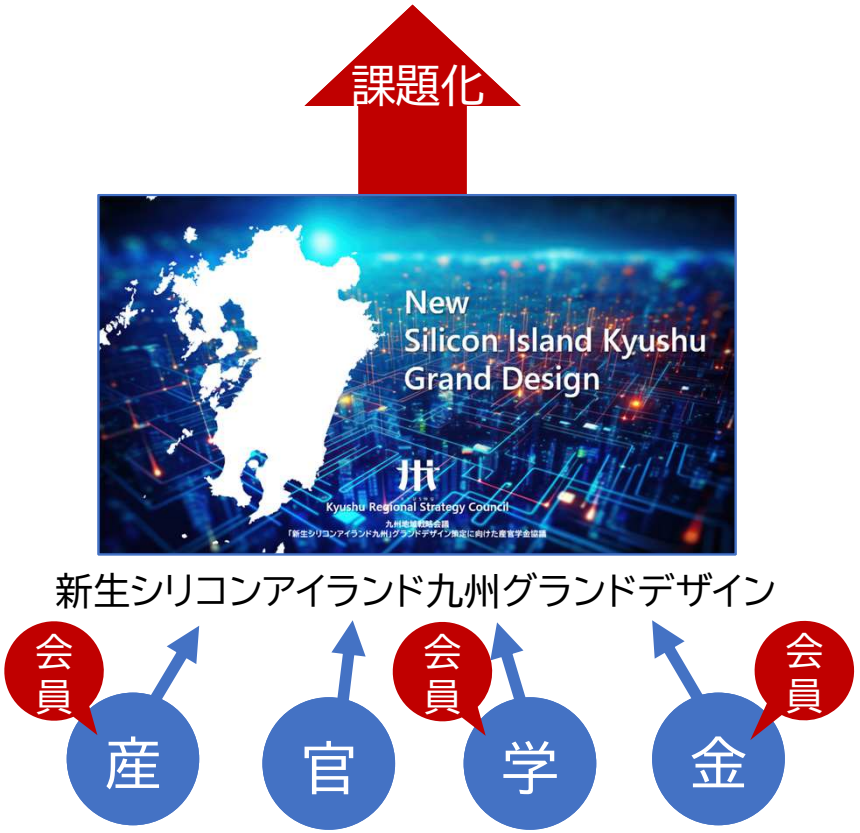
企業の立場で、社会課題等を明確化できる。
それらの課題をビジネスで解決するという「出口戦略」を描ける。

共創のハブ機能

九州MaaSと新生シリコンアイランド九州グランドデザインでの「共創」



会員企業のビジネスで解決へ



(注)2024年9月時点

九経連会員のメリット

メリット①

ビジネス上の障害となっている問題の解決や

目指す姿を実現するための大型案件

＝　**「舞台」を整える案件の遂行を**

九経連の各委員会や事務局に促すことができる

ご意見・要望を
お寄せください



メリット②

九経連の案件に参画することで、

課題解決のスキーム構築にあたって、

ビジネスベースの出口戦略を念頭においた議論ができる

＝　**案件の上流からビジネスチャンスを把握することができる**

積極的な参画を
お願いします

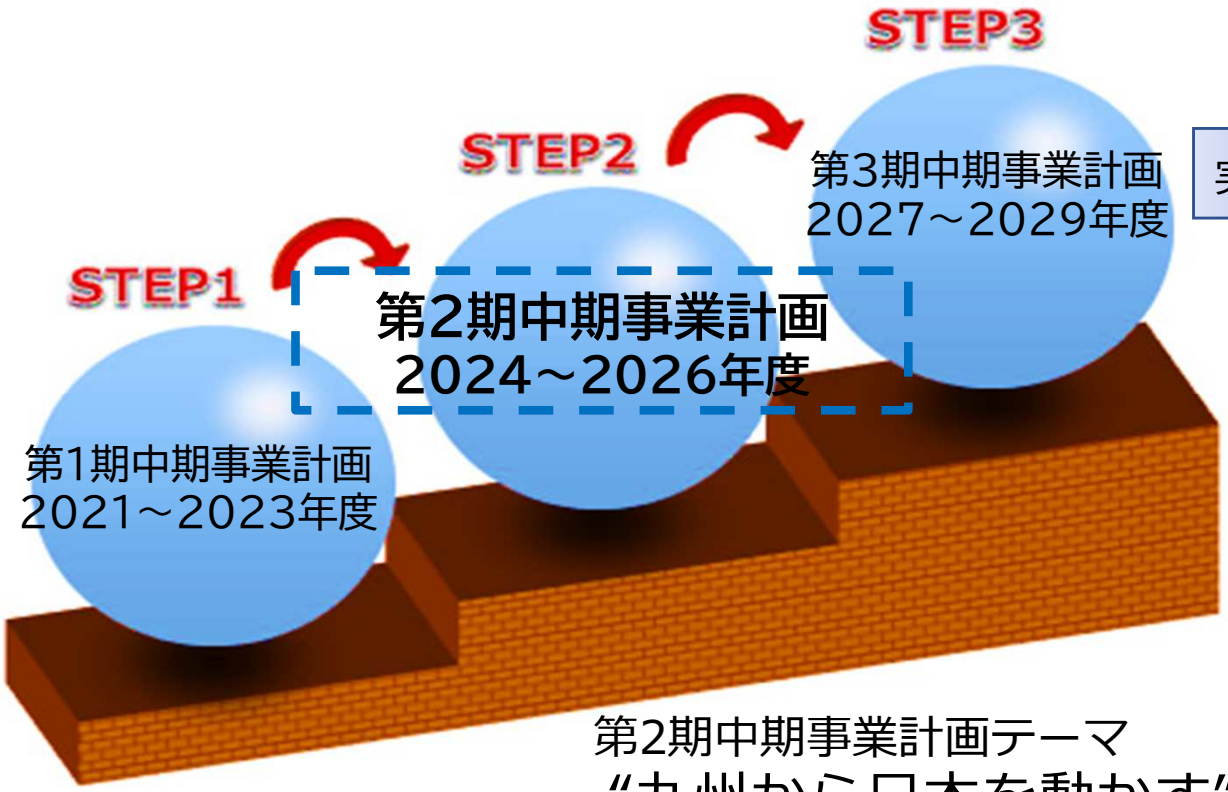
１．九経連ならではの「役割」と「強み」

２．第2期中期事業計画　（2024～2026）
～ 地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦 ～

３．九経連2024年度具体的な取組
～ ビジネスチャンス創出（共創のハブ機能）

第2期中期事業計画の位置づけ・テーマ

第2期中期事業計画（計画期間：2024～2026年度）を
九州将来ビジョン2030実現に向けての第2ステップと位置付け、
「“九州から日本を動かす”新たな価値の創出
～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦」　をテーマに取り組む。



実現



第2期中期事業計画テーマ
“九州から日本を動かす”新たな価値の創出
～地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦

第1期中期事業計画テーマ
“九州から日本を動かす”新たな価値の創出

11の重点戦略

〈重点戦略 1〉「新生シリコンアイランド九州」の実現 ～半導体関連産業を中心とした産業集積支援と新たなまちづくり等に向けた取組

〈地域の声〉

- TSMCの進出を機に、半導体関連産業群が九州の成長エンジンとなることは共通認識。経済界と半導体業界がどのような関わり方をすれば、地元の利益につながるかが見えない。
- 半導体人材の不足が顕在化し、人材確保が急務。採用給与水準上昇により、県内企業の人材確保が難航。

〈重点戦略 2〉各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援

〈地域の声〉

- 人手不足は、全産業共通の課題。マーケットの縮小よりも担い手の減少が大きな課題であるため、DXの推進でお客さんの利便性をあげることが重要。
- 筑後地域の一大産業はアグリ部門であるが、衰退の危機にある。担い手の不足や休耕地の拡大等の課題が山積。新規参入や事業化のハードルもある。
- 畜産経営コストの約５割を占める飼料のうち75%は外国産であり、為替や国際情勢の影響が大きい。排せつ物の処理もコストがかかり、大規模経営に移行する際の課題となっている。

〈重点戦略 3〉GX推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組

〈重点戦略 4〉産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援

〈重点戦略 5〉アジア地域諸国・世界との連携強化

〈重点戦略 6〉産学官連携による高度専門人材の育成支援

〈地域の声〉

- 大学院生の場合、自分で稼いで勉強する人が多い。有償インターンシップを推進することで、学生や企業がWIN-WINの関係になるのでは（学生の技術で企業のDX化）
- 地元で就職する割合は、高校・専修学校卒で7割程度、大卒は地元に残る人が少ない。学生からは地元の企業を知らないとの声も聞く。大学との連携を考える必要があるのではないか。

11の重点戦略

〈重点戦略 7〉
九州地域の経済・産業活性化による所得・給与向上の取組

〈地域の声〉

- 沖縄県は離婚率も高く、ひとり親で苦労している家庭等では生活に困窮、子どもの学習機会も不十分であり、貧困の悪循環につながっている。

〈重点戦略 8〉
多様性・包摂性ある風土の醸成

〈重点戦略 9〉
ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進

〈地域の声〉

- 道路や鉄道網の整備が遅れている。東九州道の４車線化、東九州新幹線の整備計画路線への格上げ等、実現に向けた後押しをお願いしたい。
- 地域の公共交通は、事業継続が厳しい。急速に人口減少が進む中、地域の交通ネットワークを維持しながら利便性を確保していく方策を考える必要がある。
- 公共交通による観光客の回遊性の向上や外国人観光客が使いやすい公共交通の提供が重要。

〈重点戦略 10〉
地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援

〈地域の声〉

- 地球温暖化により、毎年降水量も上昇、水害が発生している。治水問題について企業や経済団体は何ができるのかを考える必要がある。
- 毎年水害が発生しており、対応は喫緊の課題。住宅・工場等の浸水等、経済界に与える影響は大きい。

〈重点戦略 11〉
九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決

〈地域の声〉

- 高校までに地元企業を知らない学生は地元を離れていく傾向にあるため、地元企業を知る機会をつくっていくことが必要。
- 有田地区では後継者不足が深刻。若者の人材確保にも大変苦労している。焼き物好きを集めようとしても住居やインフラ環境が整っていない。有田全体で職人の育成を考えていく必要がある。
- サービス、飲食等の観光人材の不足。TSMCやツール･ド･九州等、世界中から九州が注目を浴びるチャンスの中で、観光を九州の強みにしていかなければならない。

１．九経連ならではの「役割」と「強み」

２．第2期中期事業計画　（2024～2026）
～ 地域の声を活かした飛躍に向けての挑戦 ～

３．九経連2024年度具体的な取組
～ ビジネスチャンス創出と共創のハブ機能 ～

重点戦略1. 「新生シリコンアイランド九州」の実現

2024 計画／進捗

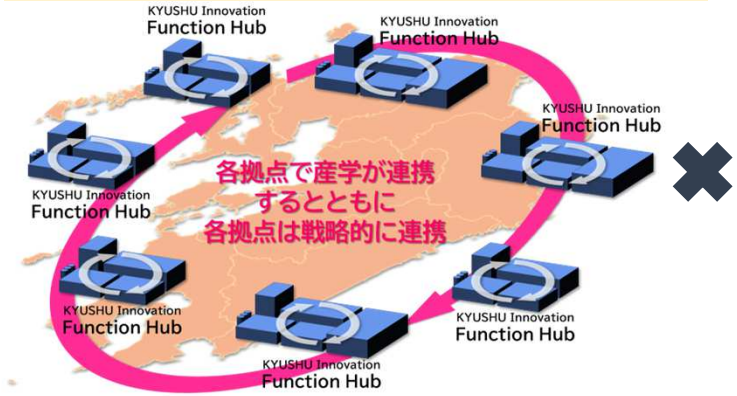
① 九州地域戦略会議と連携した「新生シリコンアイランド九州」の実現
【KPI】協議体（6月戦略会議）の設置、課題解決に向けたWG活動始動
→**【進捗】◎：情報連絡会 始動（8月、九州地域戦略会議）／半導体戦略専門部会 始動（9月、九経連）**

② 半導体関連企業及び半導体ユーザー企業の誘致・育成支援（台湾企業との協業支援）
【KPI】協業モデル構築 → **【進捗】○：準備中（12月日台協業イベント開催予定）**

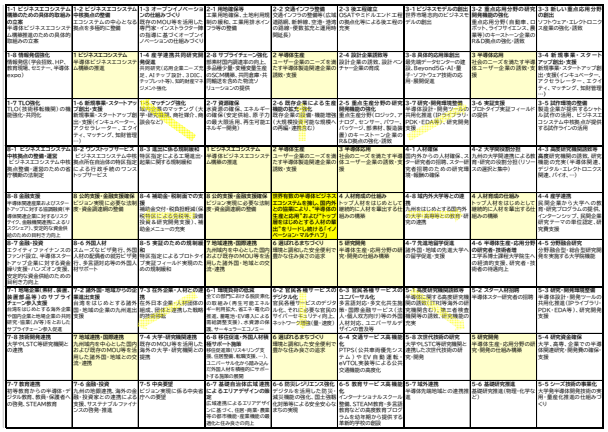
新生シリコンアイランド九州「グランドデザイン」策定と推進

決議(2024.6月)

イノベーション・マルチハブ
・半導体ビジネスエコシステム
・半導体の生産と応用
・トップ人材をはじめとする人材の輩出

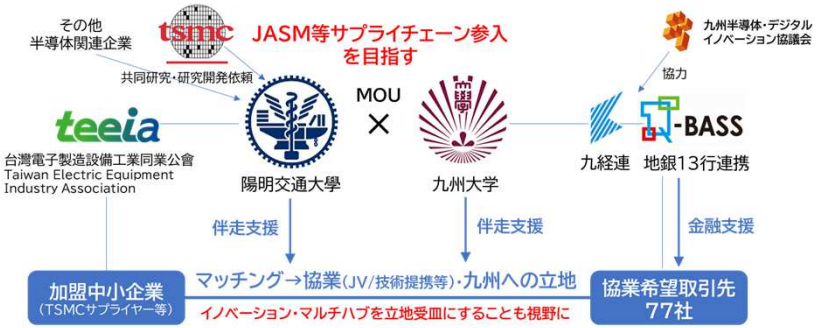


課題の網羅的整理
・ビジョン実現に向けた課題
・課題解決の方向性



半導体サプライチェーンへの参入支援

国際産学連携による参入支援
・日台連携で推進
・参入までの伴走支援



推進のための協議体・部会
・九経連「**半導体戦略専門部会**」 第1回9/25 （産学金で具体的取組を立案・推進）
・九州地域戦略会議「**新生シリコンアイランド九州情報連絡会**」 第1回8/20 （産学金＋九州各県で情報共有、連携を検討）

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>
- 半導体の生産と応用の連携の起点となるビジネスモデルの創出
- そのビジネスモデル実現のための産学連携中核拠点(イノベーションハブ)の整備に向けた官民共創活動
- JASM等半導体生産企業サプライチェーンへの参入機会創出
- 会員各社のビジネスでのその他課題の解決

重点戦略2. 各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援

2024 計画／進捗

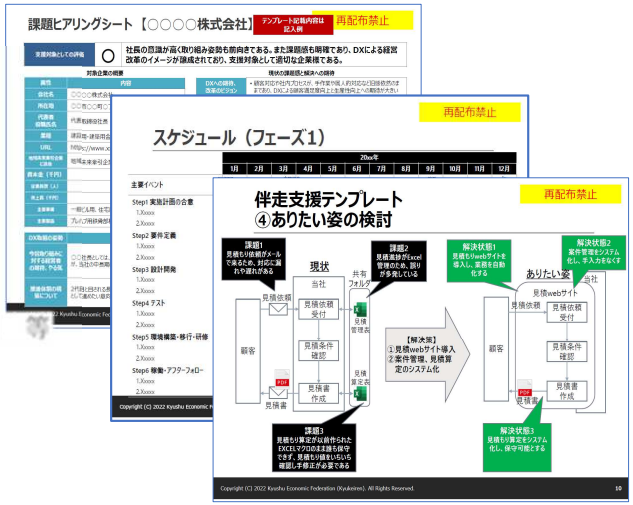
① 九州全域での中小・中堅企業に対するDX支援の推進

【*KPI*】支援企業25社 → 【進捗】▲：6社

九州DX推進コンソーシアム



多くの地域ベンダー・金融機関等で協業体制を構築したい
- 既存の対応地域・取引先などで役割分担
- 福岡銀行様、西日本シティ銀行様は参加



伴走支援テンプレート

支援

中小企業

- 2022年度整備のテンプレートを基に伴走支援（DX戦略策定、ITベンダー・コンサルとのマッチング等）を実施

ノウハウ提供

ソリューション提供ほか

九経連 産業振興・デジタル推進委員会 デジタル推進部会

- ITソリューションの提供
  （ITベンダー・コンサルリスト 更新）
- DX支援におけるアドバイス（適宜）

各自治体

- 2022年度整備のテンプレートを活用し、DX支援事業者（地域金融機関やITベンダー等）のDX支援人材の育成やスキル向上を図る

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- 貴社のデジタル化・DXを推進し、生産性向上、新たなビジネスモデルの構築への取組を支援
- 貴社ソリューション（業務効率化）の自治体への提案機会・マッチングの場（秋開催予定）

重点戦略2. 各産業の高度化・持続可能性向上・成長支援

2024 計画／進捗

① 食品の輸出拡大） 各種輸出フェア等の官民共同実施
【KPI】九州フェア開催５ヵ国･地域 → **【進捗】▲： ３カ国･地域**

② 農業の持続的成長） 多様な担い手の確保と生産性向上支援
【KPI】農業への労働力支援企業3社、スマート農業導入モデル活用事例３件 → **【進捗】▲： ２社、各県展開（8月）**

③ 林業活性化） 中大規模木造建築物の普及 【KPI】木造非住宅の新規計画１件以上 → **【進捗】▲： ０件**

食品の海外販路開拓



■鹿児島/弓場貿易㈱
■熊本/㈱ABC
■福岡/福永商事㈱
■福岡/九州農水産物直販㈱
■宮崎/㈱トレードメディアジャパン



海外現地スーパーへの販路開拓

9月 台湾･大潤發
➡10月 ﾏﾚｰｼｱ･ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ ｲｵﾝ
➡2-3月 米国･PPIH 等

農業労働力・営農支援

①地域の企業で、地域の農業を支える
・企業研修への農業カリキュラム（導入2社）
・社員の副業/ボランティア（検討中12社）

援農ﾏｯﾁﾝｸﾞｱﾌﾟﾘ（daywork）



②中山間地域向けスマート農業技術導入モデル
・2023年度： 農研機構と「モデル」策定
・2024.8月： 九州各県へのモデル提示
・2024年度： 耕作放棄地対策の研究開始
➡ 下期）現場調査

九州産木材の需要拡大

九経連林業専門部会
「モクビル研究会」
（木造ビル構造標準モデル策定）





➡ モクビル提案ツール公表（10月）

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- **地域5商社のネットワークを活用した販路開拓支援**
（香港、台湾、ﾏﾚｰｼｱ、ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ、米国）
- **「援農」による効果を前面に**
＝社員の福利厚生、農業から始める副業 地域貢献、農業部門参入のきっかけ
- **「モクビル」のメリットPR**
＝SDGs･CO2貯蔵、建設費･光熱費の抑制、リラックス効果･調湿効果

重点戦略3. GX推進及び将来にわたって産業と生活を支えるエネルギーの安定供給に資する取組

資源エネルギー・環境委員会

2024計画／進捗

① 省エネ・脱炭素の早期実現に向けた更なる意識醸成
② 地域脱炭素達成のための省エネ・脱炭素技術実装支援（脱炭素先行地域の拡大）
　【*KPI*】選定地域３件／*1*回　→　**【進捗】▲：０件**
③ GX推進戦略に基づくエネルギー安定供給と脱炭素の取組実施（ESG投融資の拡大支援）
　【*KPI*】広域連携プロジェクトの組成（１件）　→　**【進捗】▲：０件**

資源エネルギー・環境委員会推進体制

九経連資源エネルギー・環境委員会
委員長：九州電力瓜生会長　メンバー：324社（含む大学・高専）

連携

九経連資源エネルギー・環境委員会　企画部会
部会長：戸上電機製作所戸上社長
メンバー：44社（エネルギー、製造業等）

九州・沖縄・山口 ESG投融資推進会議
座長：日本政策投資銀行 竹ケ原啓介氏
アドバイザー：環境省秘書課長
委員：九州沖縄山口地銀12行
　DBJ九州支店
オブザーバー：
　財務省九州財務局
　財務省福岡財務支店
　経済産業省九州経済産業局
　環境省九州地方環境事務所
　国土交通省九州地方整備局
　国土交通省九州運輸局
　農林水産省九州農政局

連携

CN推進研究会
座長：九州大学 伊藤衡平教授
アドバイザー：九州経済産業局
委員：九州電力
　西部ガス
　トヨタ自動車九州
　日本製鉄
　JR九州
　西日本鉄道
　安川電機

環境省九州地方環境事務所との連携
①脱炭素先行地域の組成支援（自治体×企業のマッチング支援）
②地域脱炭素の実現に向けた企業×ユース（学生）セミナーの共催など

委員会事務局（九経連産業振興部）

脱炭素先行地域拡大に向けたイベント実施

環境省九州地方環境事務所と協働で、カーボンニュートラル及び脱炭素先行地域の拡大を目的として、脱炭素技術を有する企業と自治体のマッチングイベントを開催

〔2024開催計画〕 **佐賀11/15(金)、沖縄11/18(月)**

第7次エネルギー基本計画策定に対する提言

半導体関連企業の集積やデータセンター設置などにより、九州地域における電力需要が増大する可能性が高い。

国が進める「第7次エネルギー基本計画」策定に対して提言（8/8 西日本の経済団体4団体と連名で提言）

〔九州の状況を踏まえた提言内容〕
・電力需要の大幅な増加を考慮した設備形成
・カーボンニュートラルの取組みに向けた経済的支援
・高レベル放射性廃棄物処分場に対する国民理解の醸成、候補地の拡大、早期の選定・稼働　など

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>
- **貴社の技術・知見 x 地域脱炭素に取組む域内自治体とのマッチング（脱炭素先行地域の拡大）**
- **脱炭素経営推進による貴社の競争力強化や売上拡大、資金調達力の強化**

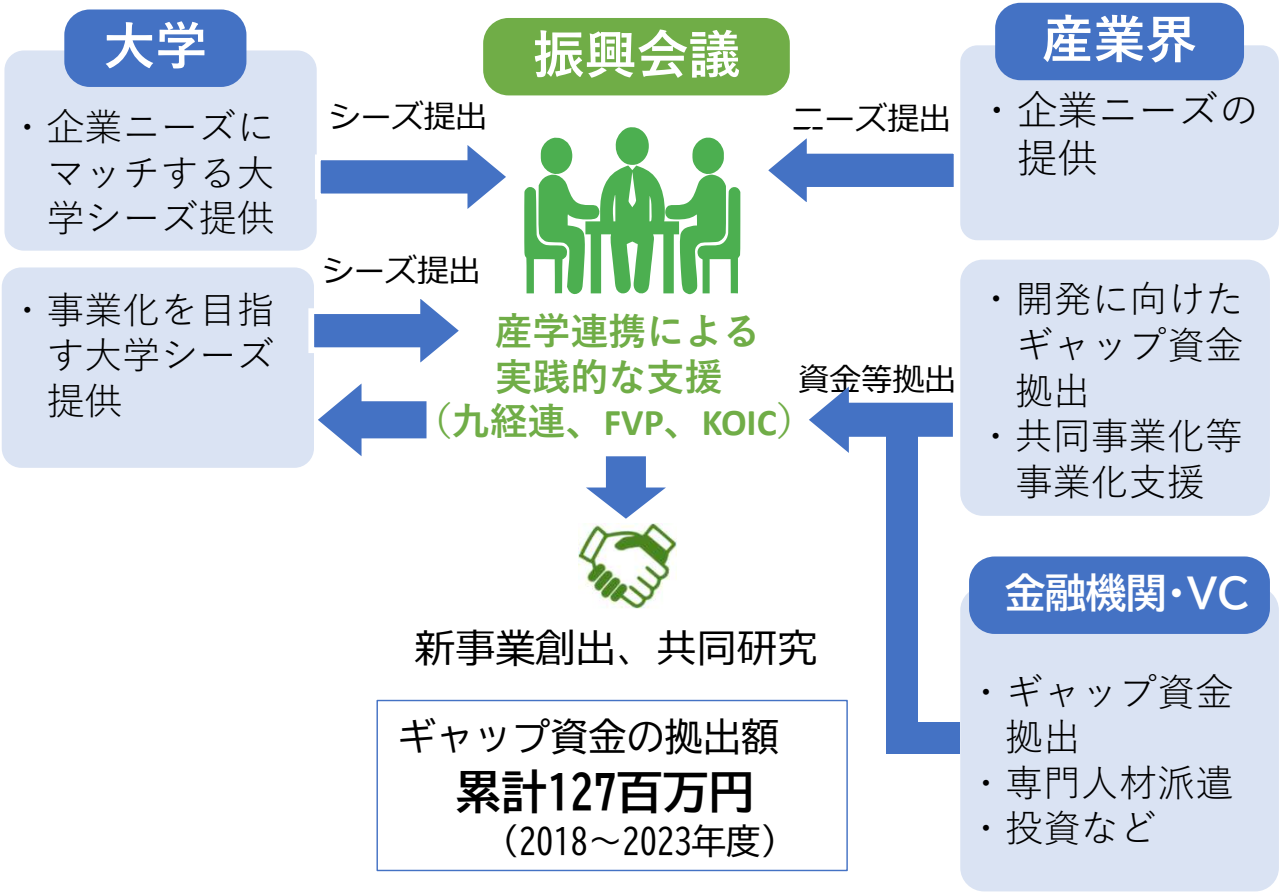
重点戦略4. 産学官連携によるイノベーションエコシステム構築支援

2024 計画／進捗

① 九州・大学発ベンチャー振興会議、九州・山口ベンチャーマーケット（KVM）等との連携による九州発スタートアップの魅力発信と支援

【*KPI*】資金調達率全国比*3. 5 %* → **【進捗】▲：*2.88%*（*第1Q時点*）**

九州・大学発ベンチャー振興会議



ギャップ資金の拠出額
累計127百万円
（2018～2023年度）

九州・山口ベンチャーマーケット

- ベンチャー企業の資金調達や販路拡大を目的としたピッチコンテスト「九州・山口ベンチャーマーケット(KVM)」を開催
- 九州・山口の各県および経済団体で構成する実行委員会が運営



<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- **大学発シーズを活用した課題解決や共同研究の推進**
- **ベンチャーの新技術を活用した課題解決や新たな事業領域の拡充** →「ピッチイベント」への積極的参加を！

重点戦略5. アジア地域諸国・世界との連携強化

2024 計画／進捗

① MOU締結先の企業と九経連会員企業との交流機会の提供（ベトナムミッション派遣）
　　【*KPI*】ミッション参加企業*20*社*50*名　→　**【進捗】○：下期実施予定**
② 他団体と連携したMICE等誘致支援

MOU締結関係機関とのネットワークの維持と交流、九州プロモーションセンターinハノイ（K.P.C.）PR促進


フィリピン大使館




インドネシア大使館

海外のMOU締結相手先との関係強化・情報連携のため、関係各所を訪問し意見・情報交換を実施（2024.6月）

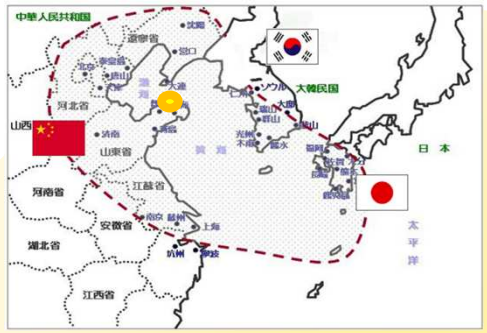

ベトナム

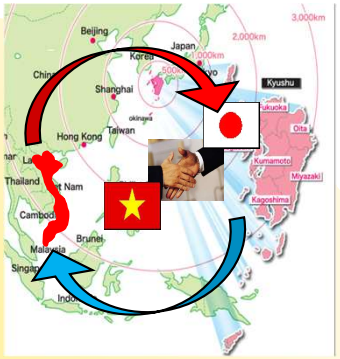




ハノイでの「福岡市企業誘致セミナー」でのプレゼンとブース出展でベトナム現地関係者にK.P.C.をPR（2024.6月）
九経連四季報にK.P.C.のPR特集記事を掲載（2024.7月）

環黄海会議（九州・中国・韓国）・九韓会議の開催、九州・ベトナム経済交流ミッションの派遣





・環黄海会議と九韓会議の開催
3カ国・地域間の経済交流促進（2024.11月、別府市）
・ベトナムに経済交流ミッション派遣
九州の食のビジネス拡大へ（2025年3月）



九州プロモーションセンター(K.P.C.)


ホーチミンでのイベントに出展予定

＜会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開＞
- **九州に対して期待を持つ海外の声に対応することで、新たなビジネスチャンスを創出**
- **K.P.C.の更なる利活用を通じて、九経連会員のベトナム・アセアンとの経済交流を促進**

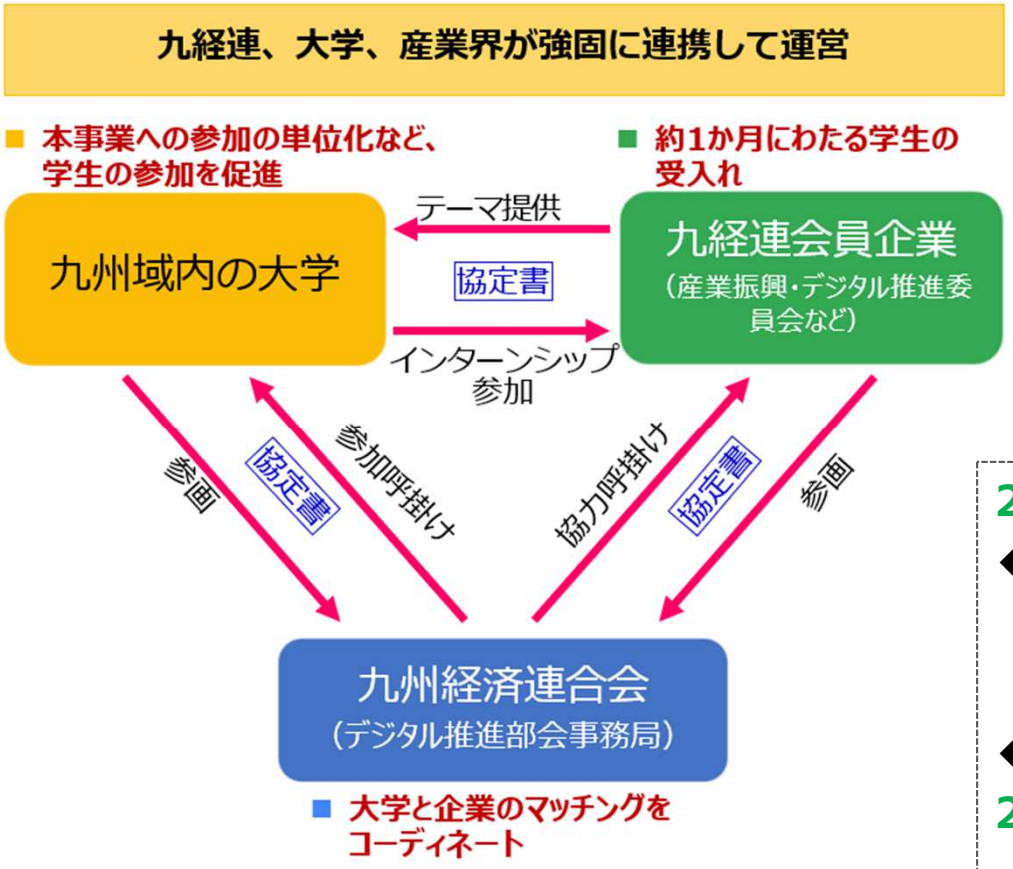
重点戦略6. 産学官連携による高度専門人材の育成支援

2024 計画／進捗

① 先導的ICT人材育成事業（インターンシップ）の推進と拡大に向けたスキーム策定

【*KPI*】インターンシップ参加*13*社/*22*名 ・九州広域への拡大スキームの策定

→ **【進捗】▲：*13*社/*16*名** ・ **【進捗】〇：大学と調整中**





2007年～2023年 実績300名

◆参加 **13**大学
北九州市立大学、九州工業大学、九州産業大学、九州大学
福岡工業大学、福岡大学、熊本大学、崇城大学、佐賀大学
長崎大学、長崎県立大学、鹿児島大学、西日本工業大学

◆受入企業 **33**社

2024年 学生16名、企業13社参加

キックオフ会議開催（2024.8.1）

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- 九州における「優れた技術力を持つ企業」「ICT技術者が活躍できる企業」の存在をアピール
- 約1か月のインターンシップ＝学生の斬新な発想や多様な価値観に触れることによる社内の活性化

重点戦略7. 九州地域の経済・産業活性化による所得・給与向上の取組

2024 計画／進捗

① 適正な価格転嫁による成長と分配の好循環の実現

【*KPI*】九州全県での支援制度拡充　→**【進捗】○：九州・沖縄・山口の最低賃金、全県で目安上回る引上げ達成。拡充状況等を下期確認予定**

経済界が共同宣言、経団連とも認識共有

2024.2 経済4団体長会議

①「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」
（内閣官房及び公正取引委員会、2023.11）の遵守徹底

②「パートナーシップ構築宣言」の趣旨の徹底と、宣言への参画を会員企業等に広く呼びかける

③適正価格での最終消費者への提供について社会全体の理解のより一層の促進

など、九州地域の各県と協働しながら取り組む

2024.3 経団連との懇談会



経団連など経済三団体による「構造的な賃上げによる経済好循環の実現に向けた要請（2024.1）」に呼応する形で、上記の宣言を行ったことを報告し、オールジャパンでの構造的賃上げ機運を醸成

九州地域戦略会議にて、各県知事へお願い

2024.6 九州地域戦略会議

【各県知事へお願い】経済界・企業の取組へ後押しを

◆ 賃上げモメンタムの維持・強化

サプライチェーン全体での労務費を含めた適切な価格転嫁が実効性をもって行われるよう、各県の政労使で努力継続を

◆ 一段の取引適正化への具体的な取組
～価格転嫁を社会的規範へ～

① 公共調達・公共工事における受注企業と、その下請け・孫請け企業間の取引適正化の徹底

② パートナーシップ構築宣言の推進と、中小企業の価格交渉力向上に対する支援

③ BtoC取引を含め、生産コストに見合う適正価格で売買することへの理解促進と意識醸成

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- **労務費を含めた価格転嫁へのご理解を**
- **「パートナーシップ構築宣言」へのご参画を**

重点戦略8. 多様性・包摂性ある風土の醸成

地域共創委員会

2024 計画／進捗

①ジェンダー主流化の取組

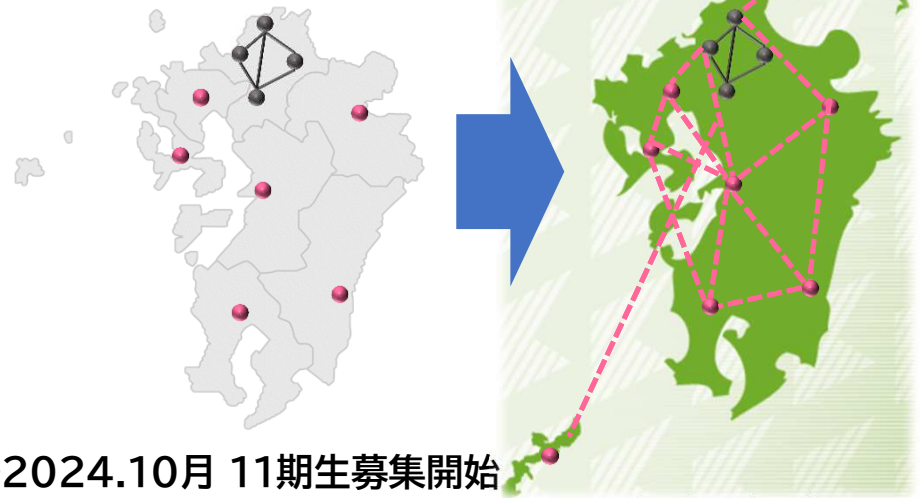
【*KPI*】ジェンダー平等推進のためのあるべき法整備に関する提言（*12*月）
→ **【進捗】〇：取組方針を変更（九州地域戦略会議「こどもまんなか九州」宣言～次期ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ策定へ）**
WE-Net「九州」研修会スタート/第*11*期生（*2025*年*1*月） → **【進捗】〇：準備中**
全ての委員会の企画部会等を対象に女性管理職の参画*10*名以上 → **【進捗】◎：*10*名**

WE-Net研修会のオール九州展開

2013スタート ～ 2023年度で10期生が修了
300名を超える女性管理職ネットワーク形成



九州にネットワーク拡大へ



➡2024.10月 11期生募集開始
年4回の定例会で、ビジネスや社会課題の解決を考え提言
ジェンダー平等×九経連事業にマッチする研修テーマ(「健康経営」等)

九経連活動への女性管理職参画促進

ジェンダー主流化

あらゆる分野で“公平なのか”
⇒九経連活動への更なるダイバーシティ視点の取り込みのため、
九経連の6部会それぞれに、会員企業の女性管理職（WE-Net福岡 修了生）2名ずつ参画

部会名	
資源エネルギー・環境委員会企画部会	
産業振興部会	1名参画確定
デジタル推進部会	（9月19日 2名）
交通委員会企画部会	（7月4日 2名）
地域づくり部会	（8月27日 2名）
規制改革推進部会	（9月3日 2名）



<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>
- 11月 WE-Net「九州」研修会スタートへ　～企業・組織を超えたオール九州での女性活躍ネットワーク
- 「ジェンダー主流化」を、九州官民一体アクション・KPIへ反映
  ～　九州地域戦略会議 次期「九州創生プロジェクト(2025-29)」を九州知事会と協議中／2025春・決定

女性管理職ネットワーク「WE-Net福岡」

Action!

社会とビジネスの課題に
ジェンダー視点のアクションを！



ジェンダー平等な社会を次世代に
WE-Next

女性が能力・意欲を発揮できる環境づくりを通して、企業・組織や地域社会に貢献

2013年始動の九州の女性管理職が企業を越え連携するプロジェクト。修了生を含む参加者は約300名。
参加者は、企業や団体の課長・部長クラスの女性管理職。

1年間を1期として、女性活躍やジェンダー平等をテーマにビジネスや社会課題の解決を考え提言を行う。その過程は、自身のリーダーシップやチームビルディングに関する省察を図るアクティブラーニング形式。

期間終了後は、現役メンバーの活動支援のほか、次世代へのメンタリングなど様々な活動を積極的に展開する。

（参考）2023年度 WE-Net福岡 10期 概要

期　間：　2023 年 4月～ 2024 年3月
参加者：　26名
主な活動：年4回・対面での定例会
　　5グループに分かれての課題探求活動

第1回 7/14(金)
①特別講演 「なぜ企業に多様性が必要なのか
　～多様性と相互理解のある社会実現～」
②トークセッション(講師×髙山副代表×10期メンバー)
③グループワーク「取り組みたい探求テーマは？」





第2回 9/28(金)
①講話 「＜強いチーム＞と＜みんなリーダーシップ＞」
②探求テーマのグループ分けの発表＋グループワーク



第3回 11/21(火)
①各グループによる中間発表
②中間発表に基づいたグループワーク



第4回 3/8(金)
①最終発表/質疑応答
②グループワーク ～活動を終えて～各チームによる年間の振り返り発表

重点戦略9. ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進

2024 計画／進捗

① インフラ整備の事業化及び事業の早期実現に向けた要望活動
　【*KPI*】要望事業の着実な整備進捗　→　**【進捗】◎：実施済**
② 九州MaaSの推進　【*KPI*】設立総会開催（*4*月）、サービス開始（*8*月頃）　→　**【進捗】◎：*8/1*開始**

交通インフラ整備要望活動・九州MaaSの取り組み

地域経済を支える人流・物流

ハード　交通インフラの**着実な整備**の必要性
⇒ 地域が一体となった政府等への**要望活動**の推進

ソフト　**顕在化する地域公共交通の課題**への対応が不可避
⇒ 官民が一体となった「九州MaaS」の推進







公共交通崩壊への深刻な懸念
・人口減少・マイカー普及による需要の継続的縮小
・労働力確保・継続するコロナ禍の影響・原油高
・地域交通ネットワークの廃止・減便による急速な縮小

×

観光:インバウンド消費の見劣と周遊環境が未整備
・全国平均より低いインバウンド一人当たりの旅行消費額
・広域に分散する観光資源へのアクセスの向上
・アフターコロナの観光誘致の地域間競争

課題解決の手段として

九州広域での官民・交通事業者間の共創・連携による「九州MaaS」の取り組み

サービスPF運用　ナレッジ集約人材確保・育成　フィジカル連携推進　データ利活用推進

デジタルを活用した、**利便性が高く、持続可能な地域交通ネットワークの構築**

<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>
- 要望活動を通じ、社会基盤整備や地域・業界の課題解決に向けた政策実現を政府・与党などに働きかけ
- 地域公共交通が抱える諸課題の解決に向け、九州の官民が一体となった取り組みを推進
- 「九州MaaS」による、観光や商業など「移動目的」と交通が連携した新たな需要の創出

九州MaaSプロジェクトの状況

1.「“競争”から“共創”へ」 ～フィジカルなくしてデジタルなし～

＜参画会員数の拡大＞

・交通事業者を始め、協議会の趣旨に賛同頂いた新たな参画会員（※）が拡大中

・会員数　4月設立時・・・74会員→ 9月末**100会員**
（正会員 各県：7 事業者・団体：64→83 賛助会員：1→8 情報連携会員：2）
※金融・損保・ベンチャー・小規模交通事業者・エアラインなどが新たに参画

＜官民の実務者による6つのワーキンググループ設置と活動の開始＞

・ボーダレス推進・葉の交通・観光・プロモーション・アプリ利活用・データ利活用の6WG
・官民実務者により1～2回／月の頻度で開催
・参加者の多いWGは100名を超える登録者数
・官民各会員の横のつながりと具体的施策の推進、ナレッジ共有・人材育成を目指す
・利便性が高くシームレスな地域交通ネットワークの構築に向けた取り組みを推進

2. 統一サービスPF ”my route” の活用推進

＜交通事業者での活用推進＞

・開始前81券種→九州MaaS**開始時約100券種→9月末約130券種**
・各県参画事業者で、県境や事業者をまたがる商品など積極的な活用を開始
・8月九州内 月間発売枚数 計 **40,600枚超**
今後も九州各地で積極的に活用を推進

＜アプリユーザーの拡大＞

・累計アプリダウンロード数 **100万件超（7月）**
・アプリダウンロード数 8月平均 **1,264件増**／日（前年同月比 108%）
・アクティブユーザー 8月 **105,600人**／月 （前年同月比 129%）
・対応言語 日・英・韓・繁体

3.「ALL KYUSHU PASS」 11月1日発売開始予定



・インバウンド向けに新たに設定
・全九州＋下関・長門の高速バス・路線バスおよび一部船舶3日分とJR九州の在来線・特急列車・九州新幹線・西九州新幹線JR券3日分をセット
・有効期間10日（連続していなくてもよく、同一日に双方を利用することが可能）
・my route、Linktivity（海外OTA）で発売
・滞在期間の延長・回遊性向上を目指す

4. 九州一体となったプロモーション





・6/4 「第45回九州地域戦略会議」で各県知事とサービス開始日・サービスロゴを発表
・7/31 九州内の参画交通事業者による共同PRを実施
（23会員、40名超が参加）
・統一ポスターを**63社、約9,500枚**を掲出展開



5. 観光との連携

・「ALL KYUSHU PASS」発売に合わせ、**九州内主要観光施設29施設**に入場できる**「Enjoy! Kyushu Pass」**を試行発売。
・9/1～12/20 300枚限定
・my routeと連携し、スマホに表示したQRコードで入場が可能となるシステムを導入
・**JTBが九州MaaSの一環として企画・発売**
・今後、利用実績に応じた精算方式や、交通券とのセット化などに向け、取り組みを推進



重点戦略9. ハード・ソフト両面のインフラ整備と広域連携施策の推進

2024 計画／進捗

①九州広域データ連携プラットフォーム（QDP）の在り方に関する調査・検討

【*KPI*】各自治体の基盤構築状況や内閣府方針を踏まえた*QDP*の構成・機能・データセットの方針策定

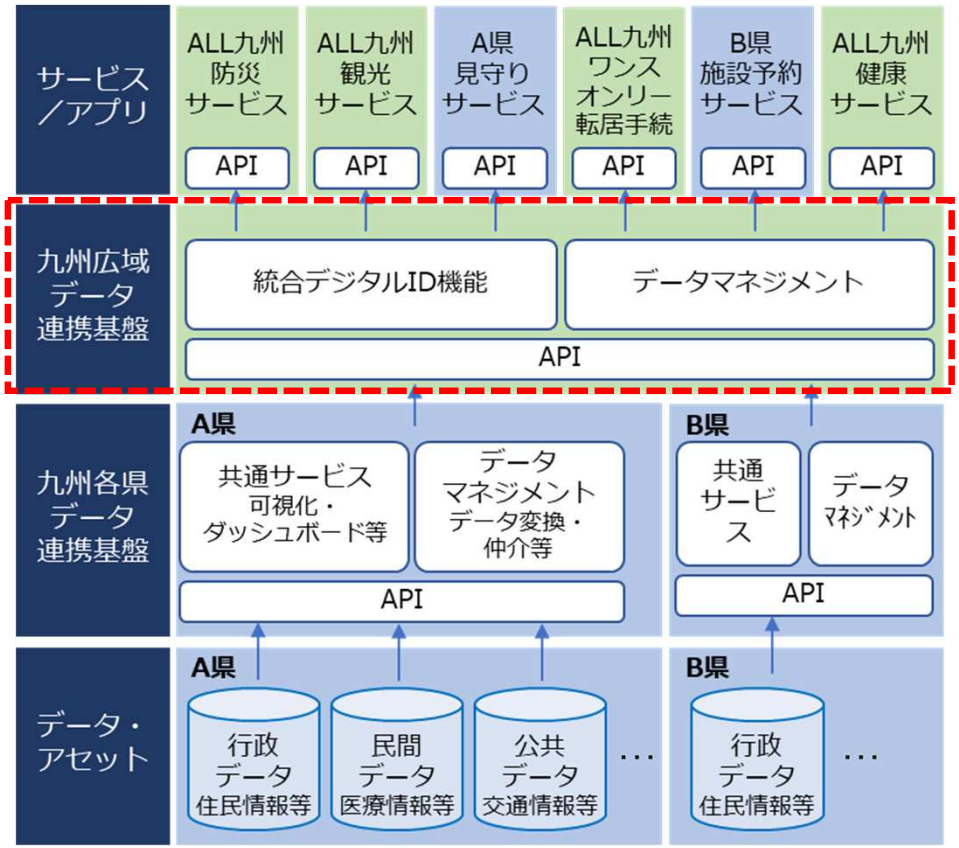
→ **【進捗】〇：準備中**

②九州広域データ連携プラットフォーム（QDP）を活用したユースケースの創出と課題抽出

【*KPI*】防災/観光の２分野におけるユースケースをそれぞれ創出し、*QDP*構築時の課題等を抽出

→ **【進捗】◎：ユースケースを決定済**

九州広域データ連携プラットフォーム



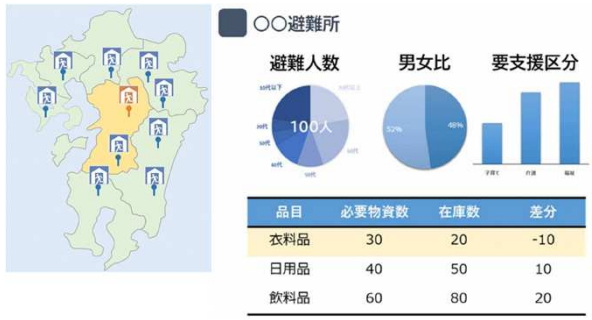
ユースケースの創出（例:アイデア公募資料より抜粋）

【防災】

LINEを活用した被災現場の情報連携サービス

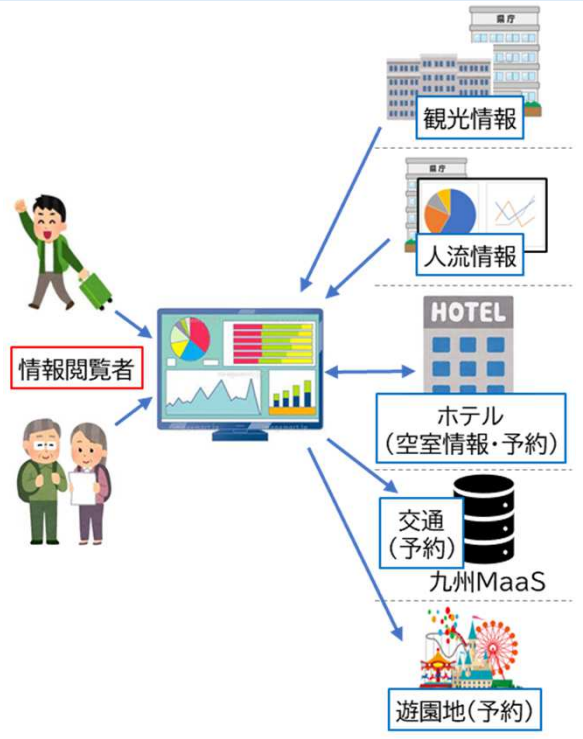


九州広域避難所備蓄共有システムサービス



【観光】

旅行ワンストップサービス



<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- **九州広域データ連携プラットフォームを活用した新たなビジネスの構築**
- **九州広域データ連携プラットフォームを活用した貴社サービスの価値向上および規模拡大**

重点戦略10. 地域の暮らしと産業を守る防災・減災機能の高度化支援

2024 計画／進捗

① 防災DXの官民共創（災害対策高度化支援、防災対策サービスの官民共創、広域連携の仕組みづくり）

【KPI】 災害情報活用における広域連携の実証2件以上 → **【進捗】◎：5件**

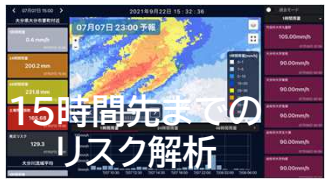
雷による瞬低・瞬停リスク低減のための落雷予測技術の有効性検証5社 → **【進捗】▲：4社6工場**

九州防災DXﾀｽｸﾌｫｰｽ会員企業のリソースを活用したサービスの企画・PoC準備1件 → **【進捗】▲：0件**

災害情報活用プラットフォームの共同利用による広域連携の実証・実装

〈大分県・災害情報活用プラットフォーム「PREIN」〉







・県境を跨いだPoC（大分・宮崎、福岡、佐賀、長崎、山口）

・九州全県合同勉強会（年4回）

✖

九州防災DXタスクフォース
（民間推進チーム発足
2023.8月）

パートナー企業（7社）

コアメンバー

一般社団法人 九州経済連合会 Kyushu Economic Federation

東京海上日動

SAP

INSPIRATION+ 1% Inspiration and 99% Perspiration

I-Resilience

✖

産業（特に半導体）を支える災害対策

・半導体工場における瞬低・瞬停リスク低減のための落雷予測技術の有効性検証（2024.8月～10月、4社）



<会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開>

- 出水期（6～10月）実証結果の検証 → ﾊﾟｰﾄﾅｰ企業のリソース x 官民災害対策高度化支援
- 会員企業の持つデータや強みを活かした防災分野の新たなビジネス構築（避難所業務のデジタル化等）

重点戦略11. 九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決

2024 計画／進捗

① 「ツール・ド・九州」開催とそれを活かした地域活性化
【KPI】2025大会の開催県拡大、地域活性化事業の実施（開催3エリア）
→【進捗】◎：3→5県 ※非公開 、◎：３エリア
② 各地域委員会との協働

「ツール・ド・九州」の拡大

「熱い走りを 美しい九州を 世界へ」

2023 第1回大会（10/6～9）
- 開催県　福岡・熊本・大分
- 観客数 88,300人
  経済波及効果 26.1億円

2024 第2回大会
- 10/11小倉クリテリウム
- 10/12～14ステージレース
  （大分・熊本・福岡）



2025 第3回大会：開催県拡大へ

九州全域のサイクルツーリズムを応援

「サイクリングアイランド九州」

◆ブランド認定　：6つの品質基準で安全安心なコース
◆誘客促進　　：九州各地のサイクリングツアー商品
◆地域との連携強化：　魅力的なサイクリング体験







Make Kyushu Sustainable
～九州の持続可能な未来のために

＜地域貢献・復興＞
・若者の地域理解





＜環境＞
・クリーンエネルギー





＜健康＞
・子供体験教室



＜先端技術の実証＞
・デジタル地図情報の活用
・防災通報システムの実証



＜会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開＞

▶ ツール・ド・九州の更なる拡充へ　～企業との価値共創（企業のSDGsの取組や地域貢献活動の発信）
①企業への注目度を高める　～より地域に近いエリアで、レースが通る住民へアピール
②企業のブランド価値を高める　～環境や地域に根差したスポーツへの応援により、企業の価値観向上に貢献

2024
10/11(金)»14(月・祝)
OITA KUMAMOTO FUKUOKA

TOUR deKYUSHU ツール・ド・九州 2024

UCIコンチネンタルサーキット Class 1
国内外の強豪 18チーム108名 が出場

【主な出場チーム】

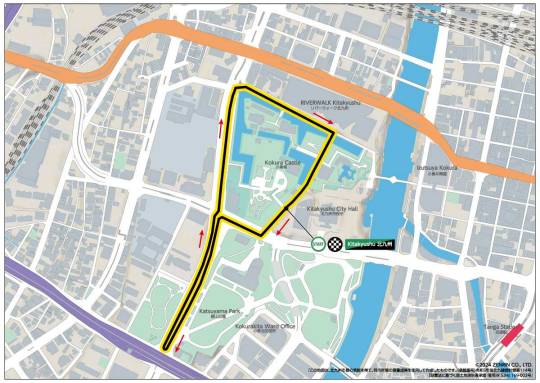
◆ UCIワールドチーム（最高カテゴリー）
ASTANA QAZAQSTAN TEAM
EF Education－EasyPost

◆ UCIコンチネンタルチーム
TEAM BRIDGESTONE CYCLING
VC FUKUOKA
SPARKLE OITA RACING TEAM



小倉城クリテリウム

10/11(金) 13:00スタート



小倉城の天守が間近に迫る1.8kmの特設周回コースを25周するクリテリウム

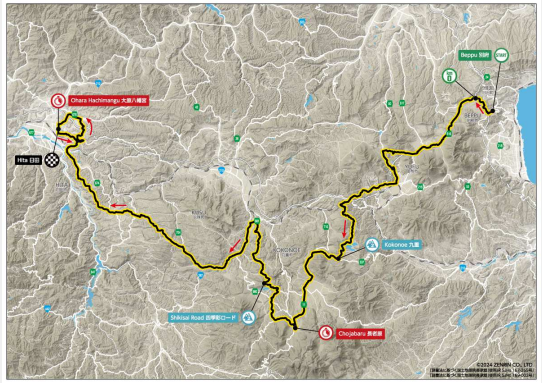
＜主な観戦スポット/通過予測＞

☞ 小倉城
13:00～14:30



STAGE1 大分（別府→日田）

10/12(土) 10:00スタート



立命館アジア太平洋大学から湯布院、長者原を経由し、日田市街地の周回コースを2周、大原八幡宮前でフィニッシュするラインレース

☞ APU
10:00



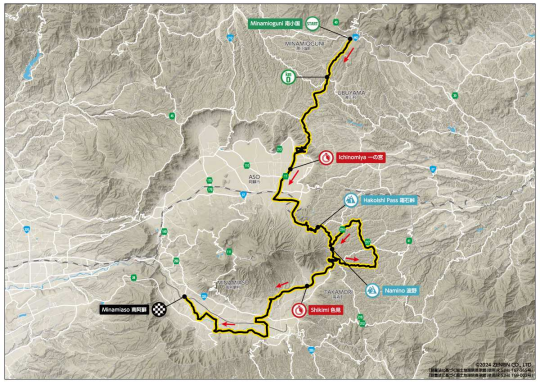
☞ 道の駅ゆふいん
10:30～10:45

☞ 日田市役所
12:30～13:30



STAGE2 熊本阿蘇（南小国→南阿蘇）

10/13(日) 9:00スタート



瀬の本レストハウスから阿蘇神社、箱石峠を経由し、周回コースを3周、南阿蘇でフィニッシュする国内屈指の景観を誇るラインレース

☞ 阿蘇神社前
9:20頃



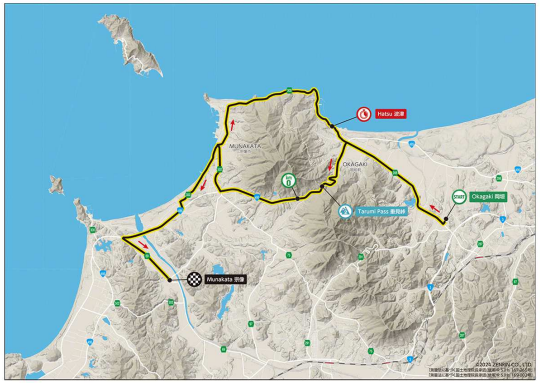
☞ 阿蘇望橋
10:10～11:00頃

☞ 南阿蘇村役場
11:50頃



STAGE3 福岡（岡垣→宗像）

10/14(月・祝) 13:30スタート



岡垣サンリーアイから玄界灘を見渡す周回コースを9周、世界遺産宗像大社でフィニッシュする高速周回コース

☞ 波津海岸
13:35～16:40頃



☞ 道の駅むなかた
16:45頃

☞ 宗像大社
16:50頃



重点戦略11. 九州各地域に共通する課題・九州全域に波及する課題の解決

2024 計画

①地域に根差した連携事業の展開（人材確保･活躍推進、交流･関係人口拡大、幸せコミュニティ推進）
【KPI】地域資源活用モデル創出（2エリア）　→　【進捗】◎：２エリア

若者流出防止「locus(ローカス)」～高校生向け探究学習プログラム

高校の必修事業「**総合的な探究の時間**」を活用した地元企業を知る機会創出

地域課題に対し地域企業と共に解決策を模索する（グループワーク）

高校生

企業が高校へ来校



2024年度 400名
大分県 3校、協力企業 6社
熊本県 4校、協力企業10社
福岡県 5校、協力企業12社

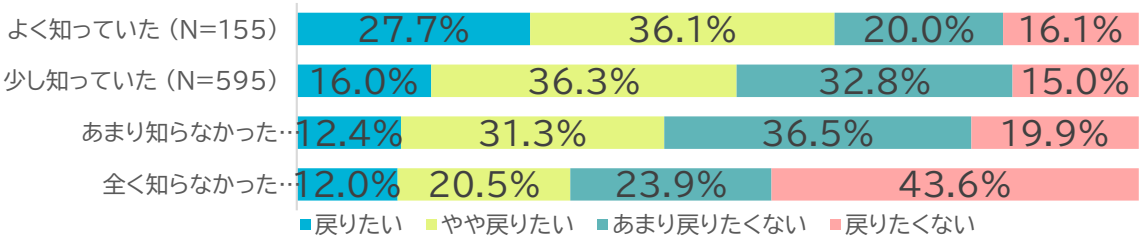
自社の技術、リソースなどを高校生に伝え、共に考える事により、企業の本質を知ってもらい、将来の雇用に繋げる

企業

【今後】業界（半導体、農業等）をテーマにした探究教材で、思い込みを取り除き、興味を喚起し将来へ繋げる



出身市町村へのUターン希望　－高校時代までの地元企業の認知程度別－



出典：「UIJターンの促進・支援と地方の活性化－若年期の地域移動に関する調査結果－」独立行政労働政策研究・研究機構（2016年）
https://www.jil.go.jp/institute/research/2016/152.html 閲覧日：2023年4月7日

域外人材・副業人材の活用

「人材共有モデル」の検討



柔軟な働き方による都市人材と地域とのマッチング

東京の会社員がテレワークを活用して佐賀の企業で副業

九州地域での人材に関する現状、課題、ニーズ及び既存の人材共有モデルの事態等を地域参事の協力のもと調査を行い、九経連としての役割、方向性を整理

2024.8月 第1回地域づくり部会
～地域共創委員会アンケート（8月）、地域参事レポートをもとに、「都市と地方との新たな人材シェア」取組方向性を議論



- ✓アイディアはあるが実行してくれる人がいない
- ✓専門知識を持った社員を育てる余裕がない
- ✓後継者がいない

＜下期展開＞
解りやすい事例、モデル創出・発信

例

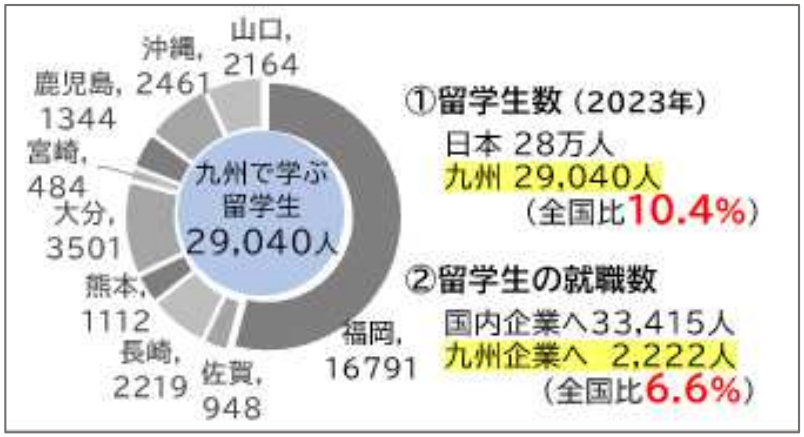


＜会員企業のビジネスチャンス創出や地域との共創に関する今後の展開＞

- 地域に人材を留める･･･　普通科高校生が地元企業を知る機会創出の取組　（実施エリアの拡大へ）
- 〃　惹きつける･･･　域外人材のナレッジ（副業･兼業）を、地域企業の経営課題解決に活かす取組推進

留学生の秋・通年採用の導入・拡充に向けて ～外国人材に選ばれるKYUSHUへ～

＜留学生　九州企業への就職状況＞



＜留学生が感じる国内就職の課題＞

☞ 日本固有の採用スケジュール
（学部3年後期/修士1年後期から就職活動スタート）

- 9月卒業の場合、半年間の内定待機期間が発生（特定活動ビザに切替）
- 進路選択は大学卒業後という意識が強く、日本の就活日程と認識が一致しない

☞ 大手企業志向　→　企業の実情を知らないこともその要因の一つ

☞ 高度な日本語への対応（ビジネスレベルの敬語、専門用語・社内用語など）



① 九州企業 x 留学生 採用マッチングサイト

開設準備中

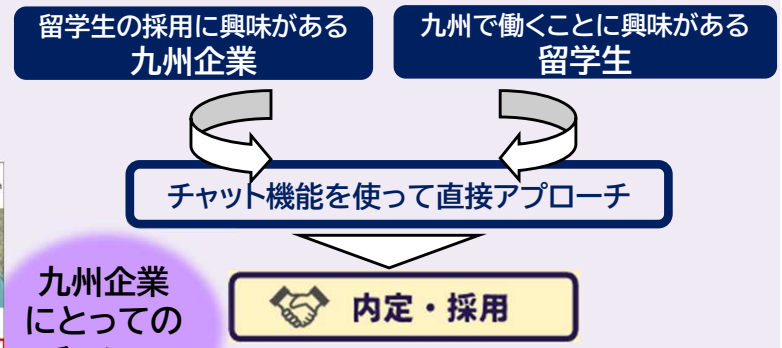


九州企業と留学生をつなぐマッチングサイト
秋・通年採用の九州企業コーナー
9月卒業生の採用活動見直しで、
優秀な留学生を獲得

（登録状況：　留学生163名／九州企業96社）

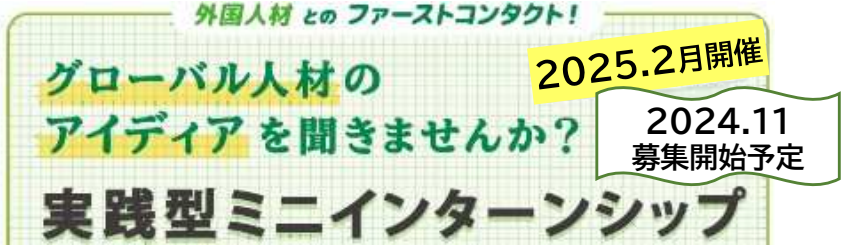
Work in Kyushuとは、
九州の企業と九州で学ぶ
留学生の採用活動・就職活動
を応援するサイト！





② 企業の課題解決型インターンシップ

- 留学生未採用企業の底上げ
- 留学生が九州企業を知る機会



③ APUを知る機会

- 9/17　　地域共創委員会　講演：APU 米山学長
（高度外国人材の定着に向けて日本社会のグランドデザインを検討する）
- 10/12　TOUR de KYUSHU 2024 マイナビ ツール・ド・九州　APUスタート
- 11/13-14　環黄海 経済・技術交流会議